

# 元気のヒント

◁56▷



徳島大学病院  
がん診療連携センター

福森 知治

厚生労働省の人口動態統計によると、日本では1981年から悪性新生物(がん)が死因の第1位を占めており、その割合は年々増加しています。2009年にはがんの死亡率は全死因の30・1%を占め、まさに3人に1人はがんで亡くなる時代になりました。

がんで命を落とさないためには、早期に発見して治すことが重要であるとは言ってもありません。早期に発見するためには、がんが進行する前に検診を受けることが最も有効な方法といえます。検診を受けることによって、症状の出ない早期のうちにかんを発見す

## がん検診

ることができません。がん検診には、市町村で実施されるもの、企業や健康保険組合などの保健事業によるもの、個人が任意で受ける人間ドックなどがあり、実施主体(市町村や職場など)によって方法や費用は異なります。

本県の市町村の検診は、40歳以上を対象に胃がん検診(胃部エックス線検査)、肺がん検診(胸部エックス線検査+喫煙者や血痰を認める場合は喀痰細胞診検査)、大腸がん検診(検便による便鮮血検査)が実施されています。加えて女性は、20歳以上で子宮がん検診(細胞診)、40歳以上で乳がん検診(視触診+マンモグラフィ)という乳房専用エックス線検査が、それぞれ2年に1回行われています(表参照)。

さらに、実施主体によっ

## 40代と女性 低い受診率課題

ではオプシオンで前立腺がん検診(前立腺特異抗原PSA)という血液検査)や、子宮頸がんの原因となるヒトパピローマウイルス(HPV)検査を実施しているところもあります。また、健康増進事業の中で、肝臓がんの原因であるB型肝炎ウイルス検査も実施されています。

日本は他の先進国と比べて、がん検診の受診率が極めて低いことが知られています。例えば米国では子宮頸がんの検診受診率が90%近いのに対して、日本ではわずか20%程度です。07年に策定されたがん対策推進基本計画では、胃がん、肺がん、大腸がん、乳がん、子宮頸がんの検診受診率50%を達成することが目標に掲げられています。

本県のがん対策推進計画でも、国の目標に準じて受診率50%を目標としています。国民生活基礎調査によると、10年度の本県での検診受診率はわずか20%程度であり、内訳は、胃がん24・4%、肺がん19・6%、大腸がん18・7%、乳がん

市町村実施のがん検診の一覧表

検査内容	適応年齢
胃がん検診	胃部エックス線検査 40歳以上の男女
肺がん検診	胸部エックス線検査、 喀痰細胞診検査(注) 40歳以上の男女
大腸がん検診	便鮮血検査 40歳以上の男女
乳がん検診	視触診、マンモグラフィ (乳房専用エックス線撮影) 40歳以上の女性(隔年)
子宮がん検診	細胞診 20歳以上の女性(隔年)

(注) 喀痰細胞診の対象者  
①喫煙指数(1日の喫煙本数×年数)が600以上  
②6カ月以内に血痰のあった方

21・0%(過去2年以内の受診率は36・4%)、子宮頸がん21・9%(同36・4%)でした。

これらの受診率はいずれも、全国平均と比較するとまだ低い状況で、特に働き盛りの世代である40代と、女性の受診率が低いことが課題となっています。これは現状を踏まえて、本県ではがん検診受診率向上を目的としたがん検診推進事業(無料クーポン券)が乳がん、子宮がん、大腸がん、実施されています。

さらに、検診の啓発活動

に取り組み店舗、事業所、団体などを「徳島県がん検診受診促進事業所」として募集し、登録する試みや、高校生などの若い世代に対する教育、啓発活動なども積極的に行っています。

がんは、高齢化社会を迎えるわれわれにとつて避けられない病気になりつつあります。がんになるのをただ待つのではなく、定期的に検診を受けることに

を積極的に行うことが最も重要です。今まで検診を受けたことのない人は、ぜひ今年から、また、いつも検診を受けている人はこれからも、定期的にかん検診を受けましょう。

# 症状が出る前に発見を

を